



第24号

「PMFを応援する会」会報

協奏

2022年11月15日

音楽のすばらしさを子どもたちに



札幌の夏を彩るPMF2022が開催され、札幌芸術の森や札幌コンサートホールkitaraなどで、様々な演奏会が行われました。感染症の影響によって、この2年余りは生の音楽に接する機会が極端に減ってしまい、寂しい思いをしておりましたが、多くの方々の御尽力により無事に開催され、本当に嬉しく思っております。一流の教授陣から音楽を学び、音楽家を目指す若手演奏者の熱いエネルギーを感じると共に、皆で作上げる音楽のすばらしさをたくさんの方々が楽しんだ夏になりました。

この度、本校の3・4年生の出前授業として、2度に渡っての演奏会を開催していただいたことに、心より感謝申し上げます。当日は、AIR-G'の高山秀毅さんのテンポの良い解説で、レナード・バーンスタインの音楽に対する考えや、若者への音楽教育に力を注ぎたいという思いを、生前のインタビュー映像を用いながら子どもたちに説明していただきました。札幌でこのような演奏会があることや、レナード・バーンスタインによって結成された音楽祭であることを初めて知る子もいました。

本校での演奏会では、PMF出身者である札幌交響楽団チェロ奏者の荒木均さんが中心となり、1回目はピアノとチェロの演奏、2回目は弦楽四重奏というスタイルでした。クラシック曲はもちろん、ジブリメドレーや情熱大陸などの演奏があり、澄み渡る音色や息の合った演奏に耳を傾けました。リズムに合わせて体を揺る子、曲に合わせて指揮をする子、じっと真剣な表情で見つめている子など、様々な子どもたちの姿が見られました。

札幌市立福住小学校
校長 中村 ちひろ



生の音色が体育館に響き渡り、子どもたちの心に素直に染み渡ったのだと思います。曲の紹介や楽器の説明などもあり、バイオリンやチェロも実際に触れる時間まで企画していただきました。チェロの弓が馬の毛で作られており、弓を緩めると一気に白い毛が広がった時には、驚きの声が上がっていました。実物を見ることや、知らなかったことを知ることが出来た喜びは、忘れられないものです。この度の演奏会は、知識と共に豊かな感性を身に着ける絶好の機会となりました。

音楽は、人の心を豊かにしてくれます。今回の演奏会を通じて、子どもたちの感性を磨くための環境づくりが大切であることを実感しました。今後ともPMFが盛大に開催されると共に、音楽のすばらしさを身近に感じる機会を通し、未来を担う子どもたちが明るく元気に活躍できることを願っています。



出前授業（2022年6月16日、27日、福住小学校にて実施）

開催までの経過・・・あれこれ・・・



コロナ禍でPMFが開催できずにいた2年間、この間に当会は主催事業について役員会の度、あれこれ話し合ってきたのは夏の風物詩として30余年愛されてきたPMFが人々に忘れられてしまうのではないだろうか、札幌が未来に伝えたい国際教育音楽祭PMFを何とか次の世代に引き継ぎたいという思い。そこから発想した結果が小学校への「出前授業」でした。

- ★「パシフィックミュージックフェスティバル2022」が正式開催と決まり、学校と地域が協働で教育に関わるという実践をしてきた豊平区の福住小学校にこの「出前授業」の提案をしたところ、3年生と4年生の音楽の授業に取り入れてくださることになりました。（すぐに理解されることは画期的なことです）
- ★PMF2022開催前に「PMFって何？」を子どもたちに知ってもらいたいとの思いから、授業内容、出演者など詳しく検討しなければなりません。当日の演奏者には札幌イレブン（団員の中にいるPMF修了生）の方に是非お願いしたいと考え、スケジュール調整をいたしました。さらに学校の授業とスケジュールを合わせることはなかなかの困難が伴いました。
- ★また、PMFの歴史や内容、そしてバーンスタインの思いを熱く語ってくれる人も不可欠です。幸い当会の監事であるAIR・Gの高山秀毅氏が適任者として決定し、パワーポイントなどを駆使してわかりやすくPMFを紹介することになりました。
- ★演奏者には多忙なスケジュールを調整して、チェリストの荒木均氏が引き受けてくださり彼のお仲間を誘ってくださることも約束していただきました。

いよいよ開催当日になりました。まず4年生が6月16日3、4時間目に体育館に集まって開始です。荒木さんがバーンスタインと一緒に写った写真に歓声上がり、皆真剣に高山さんの話に聞き入り、チェロとピアノの響きに耳を傾け、時には体をゆする子がいて、楽器体験ではそっと触れたり、弓で音を出したり、非日常の音楽体験のひとつでした。



3年生は6月27日に開催しました。今度は同じく荒木氏がヴァイオリン、ビオラのメンバーを伴ってカルテットの演奏を用意してくださいました。思いのほか生の演奏を聴く機会が少ないようで、迫力ある響きに子どもたちは心を動かされたようでした。

どんなに心地よく、充実した時間だったかは、子どもたちの感想文をお読みいただければ、お分かりいただけるでしょう。「PMFを応援する会」が持ち込んだ出前授業のために、学校側、教職員と我々の間で様々な調整をしてくださった主幹教諭には心から感謝申し上げます。

《アーティストからの声》 札幌交響楽団 荒木 均 Araki Hitoshi

今回の学校訪問演奏、ありがとうございました。

「PMFを応援する会」や「福住小学校の方々」がとても良くしてくださり、気持ちよく演奏することができました。感謝しております。

生徒のみなさんも熱心に聴いてもらったように思います。

楽器紹介は時間で収まりきらないくらいの盛況でした。

高山さんとのPMFトークも会話が弾み楽しく進行することができました。

こうした活動を通してPMFの輪が次世代に広がっていくとよいですね。



《 出前授業の感想 》

福住小学校4年生の感想(6月16日)

バーンスタインさんがすごいと思いました。

なぜなら、おもいびょうきなのにさっぽろにきて、さっぽろの人たちにおんがくをとどけてくれたしピアノ、しきしゃ、さっきょくか、きょういくの4つをやつてわたしでも2このならいごとをやつてつかれてるけどバーンスタインさんは4つものやつていてそれを71才までつづけていたのがすごいと思いました。

あとうれしかったのはチェロのひくやつがうまのけということをあてられてとてもうれしかったです。あと、千とちひろをひいてすごかったです。(N.K.)



.....



バーンスタインのお話たくさん聞かせてもらい、バーンスタインは、とてもすごくて、昔は、とってもゆうめいでいろいろなことをしていたことが分かりました。

あと、わたしは、バーンスタインのことはしらなかつたけど、このお話をきいて少しきょうみをもち、もっとしらべてみたくなりました。

あとチェロ、ピアノ、バイオリンのえんそうやきょくをきいて、むずかしそうでたいへんそうなのに、にこにこわらいながら、たのしそうにえんそうをしていたので、すごいなとおもいました。

とてもはくりよくといきがあつていたのですごかんどうしました。(O.R.)

.....

はじめは「PMF」を知りませんでした。

でも司会の高山さんの話により「PMF」を知れました。

あと、プロの人の演奏が福住小で聞けてうれしかったです。チェロを演奏していた荒木ひとしさんが昔札幌に来たバーンスタインさんとかんけいがあつたことにびっくりしました。ピアノの中村さんとチェロの荒木さんの演奏がとても感動しました。もう一回曲を聞きたいです。こんど家族でコンサートに行つていろいろな曲を聞きたいと私は思いました。(N.Y.)

福住小学校3年生の感想(6月27日)

聞かせてくれたきょくをぜんぶ知つていました。

テレビやラジオでおんがくを聞いていますがなまできた方がはくりよくがあつてキレイでした。

あらかしひとしさんがバーンスタインさんと会つたことがあると聞いてびっくりしました。

こんどギターにいて聞きに行きたいです。(T.S.)

.....

あらかさんのいつたバーンスタインさんは体ちょうをこわしても音楽をたのしむということからとっても音楽がすきなことがわかりました。(H.K.)

.....

バイオリンやビオラやチェロを指ではじいて音を出していることをはじめてすごいなと思いました。あと「バーンスタイン」さんがすごいということがわかりました。(F.I.)

.....

とてもきれいでした。楽器はゆびでもひけるんだなと思いました。バーンスタインはそこまでして広げたんだなと感動しました。みんながひいているのをみてプロはすごいなと思つて感動しました。(S.M.)



.....
出前授業のあとにピクニックコンサートを鑑賞する!というおまけの付いたこの事業には、PMF組織委員会からのご協力とご理解をいただいたことを付け加えなければなりません。

出前授業開催にあたって参考のための資料提供をお願いしたところ、リンクアップコンサートの台本や「PMFものがたり」のリーフレットを児童数分提供していただきました。子どもたちはそれを手に7月30日芸術の森で開催されるピクニックコンサートに参加することになりました。それに伴って、同伴の保護者のためのチケットも提供いただきました。

7月30日は晴天に恵まれ澄んだ空気の下、参加した子どもたちと保護者の皆さんは、世界的アーティストと若いPMFアカデミー生の熱のこもった演奏にさぞ感動したことでしょう。

PMFを次世代に引き継ぐことで、「世界平和を願う街さっぽろ」「世界音楽都市さっぽろ」の夢が遠くないことを願うばかりです。

.....

PMFピクニックコンサート2022に行きました! 《 保護者の声 》

★1年生 Sさん

閉め切られた空間ではなく、開放的な空間で音楽を楽しめました。子どもも連れて行けるので、家族でゆっくり楽しむことができました。子どもは、楽器体験も楽しんでいました。



★2年生・3年生 Oさん

日差しが強く、眩しい青空だった。

小学校2年と3年の子ども（男の子）は、まず、ヤマハ教室の体験教室が目に入り、興味・関心を示した。積極的に自分から進んで楽器のところへ行き、順番を待った。

ヴァイオリン、エレクトーン、ピアノなど、普段ではなかなか手に取ることもできない楽器（特にヴァイオリン）に触れさせてもらいながら、二人の顔は輝いていた。先生も優しく手ほどきをしてくださった。

そんな楽器に触れながらPMF音楽祭は始まった。

それまでおしゃべりをしていた二人は、曲が始まるとピタッとおしゃべりをやめ、楽器の奏でるメロディに静かに耳を澄ませて聴き入っていた。家では学校のリコーダーや鍵盤ハーモニカを吹いているが、これから何か困難にぶつかったとき、悲しい出来事があったとき、音楽は心を癒してくれるので貴重な体験をさせてもらったと感謝しています。

★清田区在住 Tさん

芝生の上で、「自由」な雰囲気の中で音楽を楽しみました。子どもも安心して連れて行けるので、家族で本物のオーケストラを体感したのは今回が初めてです。子どもも親も、「また来年も来たいね!」と話していました。国籍を越えて、互いをリスペクトし合って創り上げてきたことを、音から感じました。



©PMF組織委員会

(公財) パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会から

〒060-0052 札幌市中央区南 2 条東 1 丁目 1-14 住友生命中央ビル 1 階 TEL011-242-2211 <https://www.pmf.or.jp/>

PMF2022 は 3 年ぶりに海外からもアカデミーや教授陣を迎え、7 月 16 日から 8 月 2 日の 18 日間にわたり開催いたしました。新型コロナウイルスが猛威を振るう中ではありましたが、多くの PMF ファンの皆様にご来場いただき盛況のうちに音楽祭を終えることができました。今シーズンは、ファンの皆様の暖かいご声援・ご支援のおかげをもちまして本来の形での音楽教育や演奏会を復活させることができました。この場をお借りして心から感謝申し上げます。



アカデミーアンケートの回答から一部抜粋してご紹介いたします！

■全体を通して、PMFは・・・

- ・ PMF で札幌にいられたことは生涯忘れられない経験です。(多数意見)
- ・ 素晴らしい仲間や教授に出会い、学ぶことができました。音楽を学ぶだけでなく、様々な国の同世代の友人たちと演奏することはとても価値のあること。
- ・ ハングリー精神とオープンマインドを持った多くのアカデミーと知り合うことができました。渡航費や授業料、ホテル代を支援してくれたことに感謝しています。

■PMFによって、変わったと思いますか？

- ・ PMF は今まで過ごしてきた小さな場所よりも世界がもっと広いことを気づかせてくれました。世界の一員であるように感じ、今後もっと世界を知り、異なる文化を経験しなければと思いました。(多数意見)
- ・ PMF は感謝と喜びにあふれ、音楽家になるための方法を学び、プロ意識を持つことができるようになりました。
- ・ PMF の前は、オーケストラをやりたいかどうかわからなかったのに、音楽をキャリアとして選択しないかもしれないと考えていました。参加した後は、もう迷いません！

■文化体験/活動へのコメント

- ・ 日本の伝統楽器・音楽を学びたかった。自分の演奏のヒントになるかも。
- ・ 能は素晴らしい経験だった。
- ・ もっと文化体験をしたかった。

■札幌の街はどうでしたか？

- ・ 素晴らしい街。気候は過ごしやすい。観光客は楽しく過ごせる。治安はよく安心して日々を暮らせる。ご飯は美味しく、人々はとても親切。(多数意見)
- ・ 札幌市と市民のクラシック音楽に対する姿勢に感銘を受けた。

■最も思い出深い音楽関連の出来事

- ・ シャニの指揮、リハーサル (多数意見) 彼の音楽性に驚愕した。数十年でも彼とリハーサルしたかった。
- ・ メンデルスゾーン第 5 番でのフルートソロ。それまで実力のあるオーケストラの中で首席奏者として演奏したことがなかった。この経験が自分の音楽家としての殻を打ち破ってくれた。一生忘れられない。
- ・ 音楽が大好きな子どもたちとのリンクアップコンサート。次世代に影響を与えることほど特別なことはない！



PMF の最新情報は公式ウェブサイト、Facebook、Twitter 等で発信してまいります。
今後もご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

PMFを支えている 心づよい 二つの事例をご紹介します



Part 1 北海道大学授業 「PMFの響き」

北海道情報大学教授 三浦 洋

北海道大学にはPMFについて学ぶ「PMFの響き」という一般教養の授業があり、私は非常勤講師として20年以上担当しています。おそらく既に800人くらいの学生が受講したと思います。「PMFを応援する会」からは、赤石知恵子さんや伊藤佐紀さんに講師を務めて頂き、貴重なお話を伺っています。学生に感想を書かせると、実体験に裏付けられた講演から刺激を受けていることがよくわかります。10代の感性は素晴らしく、クラシック音楽に対してだけではなく、活動の体験談に共感を示します。

受講する学生の多くは道外出身で、最初はPMFのことをまったく知りません。しかし、課題を与えて発表させるとPMFに関心を深め、実際に3つの演奏会を聴かせた後には、すっかりこの音楽祭のファンになっています。

今年、愛知県出身の学生から聞いた話に深い感銘を覚えました。それは、その学生の父親が大学生時代を札幌で過ごし、1990年の初回PMFを聞いたというエピソードです。父親からPMFの素晴らしさを聞くうち、どの大学を受験するか迷っていた学生は志望先を北大に決めたのだそうです。こうしたことが起こるのも、PMFが30年以上続いたからで、1990年に20歳だった人が30年後に20歳の子どもを持つという循環が実現したからにほかなりません。次の世代に文化を受け継がせることの大切さを改めて認識した夏でした。



Part 2 PMF ボランティア 「ハーモニー」

コーディネーター 榎原 綾子

2022年7月16日、Kitara大ホールにバーンスタイン「キャンディード」序曲が響き、PMF2022が開幕。3年ぶりに海外からアカデミー生、教授陣を迎えてのオープニングに胸が熱くなりました。

「ハーモニー」の20年以上に及ぶ活動の中で、自分たちではどうすることもできない困難に直面した約2年間、ほぼ会期中活動は停止状態でした。会員のモチベーションや組織力の維持が課題でした。アンケート調査や今できる支援としての寄付活動。ようやく集まることができた2021年12月の総会ではアカデミー修了生によるコンサートをを行い、音楽の持つ力を借りて会員同士の絆、PMFへの思いをあらためて確認し迎えたPMF2022。

これまで「ハーモニー」が行ってきたアカデミー生対

象の日本文化体験、ハーモニーコーナー。そしてPMFグッズ販売、オープンリハーサル受付などの中で、感染対策を取りつつできるものは何か、その方法など、組織委員会のご支援を受けて入念に準備を進めました。そこには、これまでの活動で培われてきたknow-howに加え、「ハーモニー」の持ち味でもある柔軟さが大きな力となりました。そして何より、会員一人一人の中にあるPMFへの思いが、原動力となりました。コロナ禍で過ごした厳しい時間は、より深くPMFを支援したいという気持ちへとつながっていました。

PMFが札幌にあるということ、そして関わる全ての方への感謝を強く感じたPMF2022でした。

2021年度事業報告 (2021年4月1日～2022年3月31日)

《活動状況》

PMF2021は新型コロナウイルス感染の影響により後半のプログラムを中止、会期中での閉幕となり、当会の事業もほぼ中止せざるを得なくなった

- 総会 …………… 5月11日 リモート開催。議案すべて承認
- 北大授業「PMFの響き」 …… オンライン授業6月、7月
- 藤女子大講義 …………… オンライン・オンデマンド授業
- 寄附金贈呈 …………… 3月24日PMF組織委員会へ
- 感謝状受領 …………… 同日
- OCとの懇談会 …………… 同日、上田PMF組織委員会会長他出席
当会フェロー、他市民からの意見を伝える
- 協奏発行 …………… 12月6日
- HP管理 …………… 随時
- 定例役員会 …………… 毎月リモート開催

2021年度募金報告 (2021年4月1日～2022年3月31日)

募金ありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します



■募金者 敬称略 五十音順 (2021年4月1日～2022年3月31日)

赤石 尚一	赤石 知恵子	阿部 和男	阿部 千秋	阿部 和加子	石塚 米子	石塚 史恩	伊藤 光湖
今井 律子	氏家 公子	大久保 多恵	大澤 久子	大谷 慎一	大谷 洋子	小田 浩之	加々谷 玲子
河島 瑛子	木村 清順	熊本 寛見	倉岡 修子	今 裕子	近藤 崇	近藤 光子	齊藤 克幸
斎藤 晋吾	坂本 慶子	塩澤 正樹	渋谷 優佳	清水 貴子	島田 宏子	白戸 二七子	杉本 猛
鷺見 武	鷺見 陽子	関 蓉子	竹津 伊織	竹津 香織	竹津 香苗	竹津 秀磨	竹津 理枝子
高橋 久恵	田中 薫	谷内 茂	谷口 哲雄	天日 彰子	天日 一光	中野 敏仁	西川 優
丹羽 祐而	野上 まさ子	畠 謙二	花井 美恵子	廣田 美貴子	藤田 澄江	藤原 夏樹	本間 ひとみ
前田 薫	松川 早苗	松宮 従子	三坂 桂子	三田 雅子	三谷 和央	村田 保弘	目加田 懋
湯原 光子	横山 憲治	吉田 幸弘	米澤 修吾	若月 公子	若月 富男	匿名1名	

■募金額 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
募金数 71件	2	1	0	1	8	0	0	2	7	38	5	7
募金額 285,000円	6,000	3,000	0	5,000	27,000	0	0	2,000	37,000	154,000	24,000	27,000

2022年度事業展望 (2022年4月1日～2023年3月31日)

- 小学校出前授業 …………… 6月16日福住小学校
6月27日福住小学校
- 北大授業「PMFの響き」 …… 6月16日、7月7日
- 定例役員会 …………… リモート開催

《以後予定》

- 協奏発行 …………… 11月予定
- フェローミーティング …… リモート開催予定
- 寄附金贈呈 …………… 年度末
- HP管理 …………… 随時

PMF組織委員会 募金寄附報告

日 時 2022年3月24日(木) 10:30
組織委員会出席者 上田会長、村山常務、田村事務局長、梶田課長
PMFを応援する会出席者 丹羽会長 三坂、近藤

2021年度の当会からPMF組織委員会への募金贈呈のため、訪問しました。
例年のとおり、みなさんからいただいた募金の中から20万円を贈呈しました。

PMFは、今般のコロナウイルスの蔓延により2020年度は中止、2021年度は途中からの中止を余儀なくされ、今年こそはとの思いがあるだけに並々ならぬ意気込みを感じました。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻のこともあり、バーンスタインの理念に平和を希求することの意味も込められていることから、音楽を通じて一層強い平和のメッセージを発することが大事であることの思いを強くしました。

上田会長からは、その思いを発信することが重要であることから、組織委員会のHPにおいても平和を希求する文言を入れるようにしたとの話がありました。

今年のPMFにおいては、すでに世界的に活躍中の二人の若手指揮者の参加のほか、従来の教授陣に加え、国内で活躍するアカデミー修了生にセクションリーダーとしての参加や例年100名規模だったオーケストラを50数名に絞るなど質の向上にも努めるとのことでした。

当方からは、GALAコンサート内容充実についての要望などを申し入れ、今後においてもお互いに協力しあうことを確認し、贈呈式を終えました。



明日への扉を開くために

バブル期に潤沢な予算で始まったPMFが、時代の変化により、年々企業からの応援が少なくなり、PMF継続が危ぶまれる事態になった時期がありました。

札幌の夏の風物詩として市民に親しまれるようになり、バーンスタインの世界平和への強い思いを受け継ぐためにも、札幌の市民ひとりひとりの願いをどうにかして表したいという思いがありました。当会はそんな時、故竹津宜男氏(前PMFを応援する会会長)の呼びかけで始めました。

アカデミー生のお世話やその他を支えるボランティア組織は既にありましたが、ファンドレイジングの組織はまだありませんでした。それと同時に、外国では当たり前になっている寄附文化をこの札幌で育みたいという思いもありました。

皆様の「PMFを応援する思い」の表現として貴重な浄財をご寄附いただいておりますが、規約に基づいて、その一部を事業費として使わせていただき、かなりの割合でPMF組織委員会に贈呈してまいりました。

その都度、組織委員会からは深い感謝のことばと感謝状を受領いたしております。

しかし、時代の変化、コロナ禍という想定外の出来事の中でPMFの未来を考えると、次世代にバーンスタインの思いやPMFを愛するひとびとの思いを「今」伝えなければとの考えが必須であると、気がつきました。

その結果が小学校での出前授業という形になりました。これまで組織委員会に贈呈していた寄附金のかなりの部分を次世代のため、未来につながる活動に充てていきたいと考えます。明日への扉を皆さまと力を合わせて開けるよう、引き続きご理解とご支援をお願いいたします。

【編集後記】

バーンスタインが願ったようには世界の状況は向いていないようです。でも、PMFは肅々と彼の志を受け継ぎ、歩みを進めていることに誇りを感じられることがうれしい。

コロナ禍にもかかわらず、多くの若者が世界中から札幌に集まってくれました。青空の下、ピクニックコンサートに集った多くの人の心と彼らを繋ぐ音楽の力は何にも代えがたいものだ確信しました。この思いを次世代の柔らかい心に伝えなければという思いが強くなったこの夏でした。(み)

**「協奏」は皆さまの募金で作られています。
ご支援に感謝申し上げます。**

【発行】

PMFを応援する会

〒064-0913 札幌市中央区南13条西5丁目1-1-203 近藤方

FAX専用：011-301-3851

ホームページ <http://pmf-support.main.jp/>

(協奏バックナンバーもご覧いただけます)

(印刷協力 株式会社マルシン)